

【2018年度採用ルールの確認】(赤字が今年度改訂)

	6と9対比事項	9人制	ミックス	6人制
1	サーブ本数とネットイン	2本・ネットインNG	○	1本・ネットインOK
2	サービスのブロック	OK	○	NG
3	サービスのアタックヒット	OK	○	フロントゾーン内にあるネット上端より高いボールをアタックすると反則
4	ブロックのオーバーネット	NG	○	OK
5	ブロックのカウント	ボール接触回数に数える	○	ボール接触回数に数えない
6	ネットボールのカウント	ボール接触回数に数えない	○	ボール接触回数に数える
7	ネット上での押し合い	ホールディングのダブルファウル	○	ラリー続行(反則なし)
8	相手フリーゾーンから	ボール取り返し不可	○	ボール取り返し可能(一定の条件下)
9	タッチネット	アンテナ間のネットのみ反則(2016年度～)	○	アンテナ間のネットのみ反則
10	複数選手の同時接触	1回のヒットと見做す	○	人数分の回数のヒットと見做す(ブロック除く)
11	サービス時の選手の位置	コート内外を問わず自由(コート外でもOK)	○	コート内でローテーション順
12	パッシングザセンターライン	センターライン無し	○	足の完全侵入のみ反則(*は今年度から廃止) (*ミックスでは足(手の平)以外の侵入は反則)
13	選手交代の要求	6人制と共通化(2018年～)	○	交代して入る選手が交代ゾーンに立つ
14	選手交代の回数	1セット6回まで(2017～)	○	1セット6回まで
15	インターバル(セット間)	3分(2015年度より6人制と同じ)	○	3分(2分30秒で選手をコート内に導く)
16	2セット目のコートとサーブ	コート交代・1セット最終サーブの反対チーム	○	コートチェンジ・1セット目のレシーブチーム
17	3セット目のコートとサーブ	コート交代・2セット最終サーブの反対チーム	○	改めてトスで決定
18	フットフォルトのハンドシグナル	主審は自分の足元を片方の手で指す	○	主審は該当するラインを指す
19	アンテナの位置	サイドバンドの外側20cm	○	サイドバンドの外側の縁に設置する
20	ネット補助ロープの網目間隔	上から3・3・4	○	上から4・3・3
21	サービス瞬間の選手の位置	自由(コート外でもOK)	○	コート内でローテーション遵守

【2018年度改訂のミックスルール】 2018.3.8

1. パッシングザセンターラインの通常6人制ルール適用。(足の完全侵入のみ反則)
2. 『踏んだ』コールによる失点を廃止する。但し、執拗なアピールは他の事例と同様制裁の対象とする。
3. ネット越しの衝突の適用について表記を明確化。(『反則は先に起こったものを採用する』原則に即した内容にするため)
 - ①アタックイン⇒衝突 ◆吹笛1:アタック側が1得点 ◆吹笛2:レシーブ側が1得点(危険行為で赤カード)
 - ②アタックアウト⇒衝突 ◆吹笛1:レシーブ側が1得点 ◆吹笛2:レシーブ側がさらに1得点(危険行為で赤カード)
 - ③衝突⇒アタックアウトorイン ◆吹笛:レシーブ側が1得点(危険行為で赤カード) アタックの結果は問わない。
 上記①②で吹笛1の得点がセットポイントなら次セットの1点目にカード適用分を記入する。マッチポイントなら口頭注意のみ。
4. キックボールの規定に問題はないので従来通りとする。◆吹笛1:ボールアウトの失点 ◆吹笛2:赤カードの失点
5. カードの使用は主審の裁量であることを選手も審判団も認識する。

【2018年度 日本バレーボール協会のルール改正】

1. 選手交代の受入れの簡素化(6人制と共通化)

- ①コートに入る準備のできた選手が選手交代ゾーンに入ることによって選手交代の要求が発生する。監督又はゲームキャプテンはハンドシグナルを示す必要はない。
- ②選手交代をセットの試合開始前にも要求できるが、その際はハンドシグナルが必要になる。
- ③同時に複数組の選手交代も可能だが、コートに入る全ての交代選手は、**同時に**選手交代ゾーンに入らなければならない。

【近年のルール改正点で十分浸透していない事例】

1. 副審のハンドシグナル追従廃止(2015年度)

- ①副審は主審が判定を下して出すハンドシグナルを追従する必要はない。通常立っているポールから50cmの立ち位置から負けチーム側でポールから1mあたりに移動して立つ。(負けのサイドを示すシグナル)
- ②タッチネットやパッシングセンターラインなど副審が吹笛した場合は、その後主審出すサイドを示すハンドシグナルを追従する。

2. セット間の時間は3分間(2015年度)

記録員と副審は2分30秒間に次セットの準備をして吹笛して選手をエンドラインに並ばせる。記録員はセット終了時間に3分をプラスした時間を次セットの開始時刻として書き込む。

3. ネットタッチのネットの範囲(2016年度)

反則の対象はアンテナ間の網目部分のみとなった。(アンテナ反則には変更なし)

